

学会参加レポート

The ISN-ESN Meeting 2017 に参加して

天野 元揮

(大阪大学大学院連合小児発達学研究所)

私は幸いにも ISN トラベルアワードを受賞し、The ISN-ESN Meeting 2017 に参加しましたので、ここに学会レポートとして報告させていただきます。さて私が ISN-ESN パリ大会に参加した経緯ですが、ISN トラベルアワードの申請締め切りの少し前に異動してこられた吉村助教の「ISN トラベルアワードを受賞すれば、飛行機代がほぼ無料で学会に行けるよ。」という魅惑の一言から始まりました。英語が人一倍苦手の私には時期尚早でしたが、国際学会に出たい!!パリに行きたい!!と思い、ISN トラベルアワードの申請を決意しました。CV や abstract などの申請書類の作成は大変苦勞しました。しかし、指導教員の先生方及び日本神経化学会国際対応委員会の皆様にご指導して頂き、ISN トラベルアワードを勝ち取ることが出来ました。ISN-ESN パリ大会はパリ地下鉄ポルト・マイヨー駅のすぐ側のパレ・デ・コングレ・ド・パリという国際会議場で行われました。学会開催日の直前にスペインでテロが起こり非常に心配していましたが、会場出入口は警備員が常に駐在していたため、安心して学会に参加することが出来ました。パリ大会ということもあり、ワインレセプションが設けられ、フランス産のワインやチーズを楽しみながら、他国の研究者との交流を深めるためのプログラムが組まれているのは ISN ならではの感じました。私は運動神経の研究に興味があり、Young Scientist Lecture のセッションの中でも Xinglong Wang 先生の発表が印象深く、今後の実験系に大いに参考になりました。研究内容だけでなく、自身の研究の面白さの伝え方や質疑応答まで大変勉強になりました。今回参加した ISN-ESN パリ大会では出会いもありました。日本神経化学会の若手研究者と知り合い、研究や留学の話などを聞き、大変刺激を受けました。海外学会は海外の研究者との交流だけでなく、その国の文化や歴史に触れることも非常に魅力でした。ISN-ESN パリ大会は私にとって初めての海外でもあり、学会期間中の空き時間は、パリ市街地の観光やフランス料理を満喫することが出来ました。特に、モナ・リザなどのルーヴル美術館の絵画



凱旋門 (左) モナ・リザ (中) サモトラのニケ (右)

や凱旋門に感動したことを覚えています。ISN-ESN パリ大会は全てが初めての体験で、研究活動のみならずプライベートにおいても大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。これを機に様々な海外学会に積極的に参加し、海外の研究者とも交流を深めたいと考えています。最後に、このような貴重な経験を積む機会にお力添えをして頂いた指導教員の先生方及び日本神経化学会国際対応委員会の皆様に改めて深く御礼申し上げます。